πάσχα
パスカ

知っておきたいキリスト教のことば （112）

過越し すぎこし

過越祭はニサンの月の第 14 日（春分の日の頃）から八日間祝われるユダヤの三大祝祭の一つです。三大祝祭は他に仮庵祭と七週祭がありますが、過越祭が最大の祭りです。

過越祭は出エジプトの出来事に起源を持ちます。エジプトで奴隷として働かされていたイスラエルの人たちを、神さまはモーセを用いて解放しようとします。そこで神さまはエジプトに対し、10 の災いを引き起こします。その最後の災いの時に、死の天使はエジプトの初子を撃ちます。しかし小羊の血が家の入り口の二本の柱と鴨居に塗られていると、死の天使はその家族の元を過越しました。

イスラエルの人たちはこの出来事を記念して、過越祭をお祝いします。神さまの救いの恵みと、イスラエルが神の民として出発したことを祝うのです。

福音書における受難物語は、過越祭の時期におこなわれます。共観福音書では、イエス様と弟子たちとの最後の晩餐は過越しの食事として描かれています。イエス様の受難が、出エジプトを想起させる新しい過越しとして捉えられているのです。

またヨハネ福音書においては、イエス様の十字架の死の日が、過越しの準備の日となっています。その日には、過越しの小羊を屠っていました。このことからヨハネ福音書が、イエス様を「過越しの小羊」として位置付けていたと考えられます。ヨハネ福音書 1 章 29 節には「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」というイエス様に対する洗礼者ヨハネの言葉も載せられています。

イエス様の死によって、新しい過越しが完成し、神さまと人間の間に新たな契約が締結されたというのが、イエス様の十字架の意味なのです。神の小羊であるイエス様が、その血によってわたしたちの罪を贖ってくださったのです。

次回は「救い」です。お楽しみに。

「最後の災い」
エラストゥス・ソールズベリー・フィールド
（1805～1900 年）

現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。

（コリントの信徒への手紙一　5 章 7 節）